

公立大学法人岡山県立大学 令和5年度 年度計画

第1 年度計画の期間及び教育研究上の基本組織

1 年度計画の期間

年度計画の期間は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までとする。

2 教育研究上の基本組織

年度計画期間において、各学部及び各研究科にそれぞれ次の学科及び専攻を置き、中期目標を達成する取組を行う。

学部	保健福祉学部	看護学科 栄養学科 現代福祉学科 子ども学科
	情報工学部	情報通信工学科 情報システム工学科 人間情報工学科
	デザイン学部	ビジュアルデザイン学科 工芸工業デザイン学科 建築学科
研究科	保健福祉学研究科	看護学専攻（博士前期課程） 栄養学専攻（博士前期課程） 保健福祉学専攻（博士前期課程） 保健福祉科学専攻（博士後期課程）
	情報系工学研究科	システム工学専攻（博士前期課程） システム工学専攻（博士後期課程）
	デザイン学研究科	デザイン工学専攻（修士課程） 造形デザイン学専攻（修士課程）

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 学士教育

[1]

・保健福祉学部

令和3年度の学科改編に伴う新カリキュラムの実施状況を分析し、改善点について検証するとともに、地域及び海外と連携した専門教育の充実を図り、時代のニーズに応じた魅力ある教育の方向性について検討を進める。

国家試験の合格率目標の実現に向けた指導と、新資格「子ども家庭福祉ソーシャルワーク（仮称）」のカリキュラムの準備を行う。

成果指標

- ・国家試験の合格率（％）

試験名	R5目標
看護師	100
助産師	100
管理栄養士	96.0
社会福祉士	80.0

[2]

- ・情報工学部

成長分野を支える情報技術人材育成のため、数理・データサイエンス・AI カリキュラム、副専攻「吉備の杜」*の授業科目及び「海外インターンシップ」の活用を推進し、スチューデント・アシスタント*制度の活用により初年次教育を充実させる。

全国の大学、岡山県立大学協力会*、システムエンジニアリング岡山等との連携を密にし、社会人基礎力の育成に努める。

[3]

- ・デザイン学部

学部共通科目、学科専門基礎科目の履修状況及び GPA を検証し、カリキュラム

- ・ポリシーとの整合性から問題点を抽出して授業改善を進める。

学生に到達目標の理解を促すため、ルーブリック評価の導入や評価基準のシラバスでの公表を進める。

[4]

副専攻の「吉備の杜クリエイター課程*」の補助事業終了後の自走化方針を策定するとともに、各課程の独自性を担保しつつ、これらの連携をより強化して副専攻科目の実施・検証を行う。また、地域創生推進士の認定要件として制度化した準正課活動の充実に努める。

コロナ禍における社会情勢の変化や、リカレント教育*の重要性にも柔軟に対応し、円滑に授業を実施するとともに、さらなる改善を図る。

成果指標

- ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合（％）

項目	R5目標
全学部平均	54.5

[5]

新学科と副専攻を含めた大学全体について学修者本意の教育の実現に向け、アセスメントプラン*に従った IR*データの分析を進め、学修成果の把握とそれに基づくカリキュラムの改善を行う。

イ 大学院教育

[6]

- ・保健福祉学研究科

オンラインを活用し、海外の研究者によるグローバル専門教育を行うとともに、保健師国家試験に向けた対策を継続し、高い合格率を維持する。

副専攻「吉備の杜」*における研究科クロスセクション*科目の受講状況に関する評価を行い、一層の充実を図る。

成果指標

- ・国家試験の合格率 (%)

試験名	R5目標
保健師	90.0

[7]

- ・情報系工学研究科

大学院修了者の進路決定率向上のため、キャリア教育を充実させるとともに、企業説明会の効果的な実施方法について検討する。また、岡山県立大学協力会*と協働してカリキュラムの充実を図る。

副専攻「吉備の杜」*の授業科目の内容を充実させ、ヒューマンスキルの育成に努める。

[8]

- ・デザイン学研究科

令和7年度の研究科改組に向けてカリキュラム等の見直しを行う。

学部4年次による研究科科目の先行履修制度を検討し、学部からの進学率の向上を図るとともに、より専門性の高い教育への導入につなげる。

学生の学会発表やコンペティションへの参加を促進するとともに、研究テーマの選択にあたり教員の専門を最大限に活かした研究指導を行うための方策を検討する。

成果指標

- ・（[6]～[8]）大学院修了者の進路決定率 (%)

項目	R5目標
全研究科平均	100

(2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

[9]

アクティブ・ラーニング*等に資するFD・SD*研修会の開催に加え、オンライン授業を含む相互授業参観に対する意見交換会によるアクティブ・ラーニング事例や授業改善案などを通じて、教員の教育力向上に努める。

成果指標

- ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (%)

項目	R5目標
アクティブ・ラーニングの導入率	80

[10]

予算編成時期に合わせ施設・設備等の要望調査を行い、整備の充実を図る。

[11]

副専攻の「岡山創生学課程*」と「吉備の杜クリエイター課程*」とが密に連携し、コロナ禍の社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう教育プログラム（科目）としてのインターンシップの内容の充実を図る。また、国による「インターンシ

ップの推進に当たっての基本的考え方」の改正に伴い、インターンシップ科目の適合度を検証する。

成果指標

- ・長期インターンシップ参加者数（人）

項目	R5目標
参加者数	55

2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

[12]

入試データの解析方法の見直しを行い、入学者選抜方法の点検、評価を進め、さらなる改善を図る。

[13]

志願者動向の解析結果や高校側の進路指導計画に基づく戦略的かつ効果的な入試広報を実践するとともに、学生広報委員による入試広報体制を強化する。

成果指標

- ・一般前期入試での志願倍率（倍）

項目	R5目標
全学部平均	3.2

[14]

県内高等学校との意見交換や入試説明会などを通じて、高大連携事業の一層の充実を図る。

3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[15]

附属図書館においてアンケートの調査結果の分析や、「電子ブックリクエストフェア」、「ブックフェア」、「学生希望図書」等の学生による選書事業を行い、学生のニーズに合った蔵書の充実を図る。

[16]

前年度に調査したアクティブ・ラーニング*対応教室利用教員の意見、ラーニング・コモンズ*利用状況を分析し、学習環境の充実に取り組む。

成果指標

- ・アクティブ・ラーニングの推進状況（再掲：9）

項目	R5目標
アクティブ・ラーニングの導入率	80

[17]

アドバイザー*面談、オフィスアワー*を実施するとともに、スチューデント・アシスタント*制度の運用を開始する。また、学生生活アンケート結果や面談報告書の集計結果を踏まえ必要な支援等の検討を行い、学修支援体制の充実を図る。

[18]

学生の積極的なボランティア活動及び準正課活動を促すための情報提供や活動支援を行うとともに、学生団体に対する情報提供や活動支援を行い、学生FD活動*の充実を図る。

(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[19]

「教職員のための学生対応マニュアル」による支援を行うとともに、新設の学生支援コーディネーター*制度を活用し、メンタルサポートが必要な学生に対するきめ細やかな支援に努める。

財政的に困窮している学生に対して奨学金や授業料減免制度の周知、財源に応じた経済支援を行う。

学生生活アンケートから各種相談体制についての課題を検証し、改善に向けた取組を進める。

[20]

障がい学生支援のあり方等について、研修会や「教職員のための学生対応マニュアル」を通して周知を図り、適切な対応に努める。また、新設された学生支援コーディネーター*との連携体制を構築し、特に配慮が必要な学生への対応に努める。

(3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[21]

岡山県立大学協力会*の業種説明会等を低学年層にも広げ、県内企業の認知度を高める。また、県内企業インターンシップの広報、ニュースレターによる広報活動を活発化させるとともに、各学科とキャリア・就職相談室との連携を強化する。

県内企業に就職した卒業・修了生による県大吉備塾*等の企画を推進する。

成果指標

・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合 (%) (再掲：4)

項目	R5目標
全学部平均	54.5

[22]

企業インターンシップについて、掲示等のほか、授業等の機会を通じて積極的な情報提供を行う。また、エンジニアリング演習、キャリアデザイン演習等の授業科目を学生へ浸透させる。

県内企業にインターンシップ受入れの働きかけを行う。

成果指標

・長期インターンシップ参加者数 (人) (再掲：11)

項目	R5目標
参加者数	55

[23]

県内外で活躍する本学卒業生を招いて県大吉備塾*を開催し、学生の就職やキャ

リア形成に対するモチベーション向上を図る。また、各学科のキャリア支援活動を集約し、学生に対する広報を強化する。

同窓会と連携し、卒業生の積極的なイベント参加を呼びかける体制づくりを進める。

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[24]

学内競争的資金制度*の変更による効果の検証を継続するとともに、学内の研究活動をさらに活性化・効率化させるため、同制度による論文成果数の増加や外部資金獲得への展開等の成果を可視化する仕組みの導入や、若手研究者の重点領域研究への参画支援策の検討を進める。

[25]

外部競争的研究資金の公募情報の提供などを行い、積極的な申請を促し採択数の増加を図るとともに、科学研究費の申請書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動を強化し、新規採択率の向上に努める。

企業と連携した外部競争資金獲得に向けての方策を検討する。

成果指標

- ・公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。) (件)

項目	R5目標
件数	25

※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」

- ・科学研究費補助金採択率 (%)

項目	R5目標
採択率	27.0

(関連：第3-2-(1))

(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置

[26]

学内でアクティブ・ラボ*の情報提供を図ることにより教員の認知度を高めるとともに、地域企業への積極的な広報活動を進め、共同研究等*の獲得件数増加に努める。

成果指標

- ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計) (件、千円)

項目	R5目標
件数	125
金額	95,000

※件数又は金額を到達基準とする

[27]

学内競争的資金制度*による学部を越えた研究分野の連携の有効性の評価検証を行い、産業振興・地域ニーズを踏まえた新規性の高い研究推進にフィードバック

クさせるとともに、若手研究者の重点領域研究への参画支援を進める。

(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置

[28]

岡山県立大学協力会*の寄附講座をはじめとした、本学教員のシーズを活用して企業の技術開発力を向上させるための講習会を開講するとともに、地元企業の魅力を学生にアピールする活動を継続し、学生の地元定着を促進する。

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[再掲：4]

副専攻の「吉備の杜クリエイター課程*」の補助事業終了後の自走化方針を策定するとともに、各課程の独自性を担保しつつ、これらの連携をより強化して副専攻科目の実施・検証を行う。また、地域創生推進士の認定要件として制度化した準正課活動の充実に努める。

コロナ禍における社会情勢の変化や、リカレント教育の重要性にも柔軟に対応し、円滑に授業を実施するとともに、さらなる改善を図る。

成果指標

- ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合（%）（再掲：4）

項目	R5目標
全学部平均	54.5

[29]

副専攻「吉備の杜」*と連携し、「SDGsアクションプラン2020」の地域活性化、科学技術イノベーションに関する地域連携教育を県内自治体や企業等とともに推進する。

大学コンソーシアム岡山*と連携し、SDGsの理念に資する取組を実施する。

(2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[30]

地域住民等を対象とした地方創生に資する各種講演・講座等を実施するとともに、地方創生SDGs（持続可能なまちづくりや地域活性化）に資する地域連携活動を推進する。

地域連携活動の成果を本学の特色としてUI*戦略や広報活動に活用する。

6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置

[31]

各学部・研究科における着実なグローバル活動を推進するとともに、協定大学等との交流内容の精査及び改善、留学希望学生への支援を継続する。

[32]

Advanced class*履修生の授業実施状況と教育効果を評価検証し、履修生に対するアンケート調査の結果とともに授業の改善点を洗い出し、Advanced classの効果的な運用システムの構築を進める。

e-learning*教材の評価と見直しについて教員間で協議する。

成果指標

- ・ TOEIC 平均点の1年次から2年次への伸び幅（点）

項目	R5目標
伸び幅	4.0

- ・ TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅（点）

項目	R5目標
伸び幅	2.0

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置

[33]

理事長（学長）のリーダーシップの下、引き続き教職一体の執行部による大学運営を推進する。また、内部統制システムの維持強化のため、各業務におけるリスクの識別及び分析を行う。

[34]

組織体制等の見直しに伴う人件費等、収支に大きな影響を及ぼす案件について、経営的視点で検証し見直す。

[35]

教育開発センター等が実施するSD*研修等への積極的な参加を促し、教職協働への意識の向上を図る。また、事務局職員が積極的に大学運営に参画し、教員と職員と協働性の向上を図るため、必要に応じ事務局の組織体制の見直しを検討する。

[36]

人材育成方針を踏まえ、岡山県立大学職員研修計画に基づく研修を実施する。職員として必要な基礎や専門的知識の習得のため、県や公立大学協会が実施する研修をはじめ有益な研修への参加を促し、職員の能力及び資質の向上を図る。

[37]

学内ネットワークシステム更新を行うとともに、各システムの運用実態を踏まえ、情報発信・共有についてのルールの見直しについて検討する。

(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置

[38]

副専攻「吉備の杜」の未来型プロジェクト*及び創造戦略プロジェクト*を中心に、引き続き大学コンソーシアム岡山*、市町村及び企業等と連携し、地域課題の解決に向け取り組むとともに、県施策推進連絡会議等を活用し、県と本学との一層の連携を進める。

[39]

開学30周年を契機に本学の活動方針や戦略を明確化し、周年事業を通じて広く周知するとともに、学内の意識統一を図る。

[40]

学外履修者向けオンデマンド環境を整備するとともに、COC+R 補助事業終了後（令和7年度以降）のリカレント教育*について、自走化検討部会において継続方針を策定する。

2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置

[再掲：26]

学内でアクティブ・ラボ*の情報提供を図ることにより教員の認知度を高めるとともに、地域企業への積極的な広報活動を進め、共同研究等*の獲得件数増加に努める。

成果指標

・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況（合計）（千円）

項目	R5目標
金額	95,000

[41]

科学研究費申請支援活動の継続的な検証・強化を行い、獲得額の増加を図る。学内競争的資金*での研究成果を、科学研究費獲得に向けた研究への展開につなげる。

成果指標

・科学研究費補助金獲得額（千円）

項目	R5目標
金額	85,000

(2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置

[42]

各種事業について、必要性、実績、費用対効果等の検証を行い、縮小・廃止を含めた事業見直しを行う。

3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

[43]

学修成果の可視化と改善に向け、内部質保証推進体制によりアセスメントポリシーに沿った点検・評価とIRデータの公表を継続する。
認証評価受審に向けた準備を進める。

[44]

前年度に実施した学科・専攻のディプロマ・ポリシーの達成度に関するアンケート調査の結果を分析し、達成度の向上に向けた取組を進める。

[45]

改善後の教員個人評価制度について課題を整理し、制度のさらなる改善に向けて検証を進める。

(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置

[46]

役員会、経営審議会、教育研究審議会、各委員会等に係る議事録を審議過程の情報も含め公表する。

[47]

開学 30 周年を機に、本学のウェブサイトや SNS での発信、各種メディアへの働きかけにより、広く PR を行うとともに、話題性のあるコンテンツの制作等、ステークホルダーの間で拡散される仕掛けづくりに取り組む。

4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置

[48]

中期修繕計画（令和元～9 年度）に基づく設備改修（電話交換機、油焚冷暖房設備、高圧受変電設備、給排水・排水処理施設、外壁タイル等点検補修等）を実施するとともに、適宜、計画の見直しを行う。

(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

[49]

危機管理ガイドラインに沿った危機管理対応マニュアルを作成し、試行する。

成果指標

- ・危機管理対応マニュアルの作成と試行

[50]

危機管理ガイドラインに沿った災害対応マニュアルを作成し、学生や教職員への周知を図るとともに見直しを行う。

成果指標

- ・災害対応マニュアルの作成と学生、教職員への周知と見直し

第 4 予算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

第 5 短期借入金の限度額

限度額 3 億円

第 6 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第 7 重要な財産の譲渡等に関する計画

なし

第8 その他規則で定める事項

1 施設及び設備に関する計画

個別施設計画に基づき、第3期中期計画期間中に行う。

2 中期目標の期間を超える債務負担

○学内ネットワークシステム更新事業

- ・事業総額：382百万円
- ・事業期間：令和2年度～令和8年度（7年間）

（単位：百万円）

年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標 期間小計	次期以降 事業費	総事業費
債務負担額	0	38	76	76	76	267	115	382

（注）金額の端数処理は、年度毎に四捨五入を行っているため、中期目標期間小計と一致しない。

3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の使途

教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

4 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

(別紙)

予算、収支計画及び資金計画

1 予算（令和5年度）

区 分	金額(百万円)
収入	
運営費交付金	2, 1 1 0
補助金	3 3 5
自己収入	1, 0 4 6
授業料及び入学金検定料収入	9 9 5
雑収入	5 1
受託研究等収入及び寄附金収入	1 0 6
目的積立金取崩収入	2 3 7
計	3, 8 3 4
支出	
教育研究経費	8 4 0
人件費	2, 2 4 9
一般管理費	6 3 9
受託研究等経費及び寄附金事業費等	1 0 6
計	3, 8 3 4

[人件費の見積り]

総額2, 1 3 8百万円を支出する。（退職手当は除く。）

- 1 上記金額は、役員報酬、教職員給料、諸手当及び法定福利費に相当する費用である。
- 2 岡山県からの派遣職員を除く教職員の退職手当については、公立大学法人岡山県立大学職員退職手当規程（及び公立大学法人岡山県立大学役員退職手当規程）に基づいて計算し、その額が運営費交付金で措置されているものとして見込んでいる。

2 収支計画（令和5年度）

区 分	金額(百万円)
費用の部	3, 8 0 8
経常費用	3, 8 0 8
業務費	3, 2 7 6
教育研究経費	8 4 5
受託研究等経費	8 1
役員人件費	4 1
教員人件費	1, 7 7 5
職員人件費	5 3 4
一般管理費	4 7 5
財務費用	—
雑損	—
減価償却費	5 7
臨時損失	—

収入の部	5, 229
經常収益	3, 533
運営費交付金	2, 110
授業料収益	930
入学金収益	106
検定料収益	51
受託研究等収益	107
補助金収益	176
財務収益	—
雑益	51
長期繰延補助金等	2
臨時利益	1, 696
純利益	1, 421
目的積立金取崩額	—
総利益	1, 421

注1) 受託研究等経費は、受託事業費、共同研究費等を含む。

注2) 令和5年度から資産見返負債に係る会計処理が廃止され、令和4年度末の資産見返負債を令和5年度期首に全て収益化し、臨時利益に計上することとされている。

3 資金計画（令和5年度）

区 分	金額(百万円)
資金支出	4, 656
業務活動による支出	3, 631
投資活動による支出	176
財務活動による支出	—
翌年度への繰越金	849
資金収入	4, 656
業務活動による収入	3, 378
運営費交付金による収入	2, 110
授業料及び入学金検定料による収入	994
受託研究等収入	107
補助金収入	116
その他の収入	51
投資活動による収入	219
財務活動による収入	—
前年度からの繰越金	1, 059

(用語説明)

用 語	掲載箇所	説 明
副専攻「吉備の杜」	2 ・ 4 ・ 6 ・ 7 ・ 11 ・ 29	<p>平成 28 年度に、COC+（地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)における本学の地域連携教育の一環として、どの学部・学科からも受講できる副専攻「岡山創生学」を開設。</p> <p>令和 3 年には COC+R（大学による地方創生人材教育プログラム構築事業）として、地域との協働・活性化を推進し、副専攻のさらなる充実のため、「吉備の杜クリエイター課程」及び「吉備の杜プロデューサー課程」を新設した。また、これに伴い、岡山創生学を課程の一つ「岡山創生学課程」とした。</p> <p>これら副専攻全体を副専攻「吉備の杜」とし、3つの課程の連携を進めている。</p> <p>岡山創生学課程 学部 1～3 年次を対象とし、「おかやま」という地域の特性を知り、実際に「おかやま」の各地域に出向いてのボランティアや、地域の方々と協働で地域課題の解決に取り組む等の学びを行う。修了認定を受けた学生には「地域創生推進士」の称号が与えられる。</p> <p>吉備の杜クリエイター課程 学部 3～4 年次生を対象とし、各学部の特色を生かした講義・演習科目と、企業の現場で社員等と協働した学びで、地域の未来を展望できる人材を育成する。修了認定を受けた学生には「地域創生クリエイター」の称号が与えられる。</p> <p>吉備の杜プロデューサー課程 博士前期課程及び修士課程の大学院生を対象とし、分野の枠を超えた研究科横断型科目と、企業の現場で主体的に課題解決に取り組む学びで、企業の現場で即戦力となるスキルを養成する。修了認定を受けた学生には「創造戦略プロデューサー」の称号が与えられる。</p>
スチューデント・アシスタント	2 ・ 17	学生の中から採用し、授業等の補助を担わせる授業支援者のこと。
岡山県立大学協力会	2 ・ 7 ・ 21 ・ 28	県立大学と県内企業等が協働して、県大の研究成果等の活用による県の産業振興、企業人材育成の推進及び県大の教育研究活動の充実を図ることを目的に平成 30 年 3 月に設立。各種講演会や研修、業種説明会、情報発信等を実施している。
リカレント教育	4 ・ 40	近年の技術革新の著しい進展や産業構造の変化等に対応して、学校等で行う社会人再教育のこと。日本では、一般的に、「リカレント教育」を諸外国より広くとらえ、働きながら学ぶ場合、心の豊かさや生きがいのために学ぶ場合、学校以外の場で学ぶ場合もこれに含めている。
アセスメントプラン	5	学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。
IR（インスティテューショナルリサーチ）	5	教育機関において、内部に蓄積されている多数のデータを集積、分析し、そこから導き出される結果から、意志決定や改善活動を立案・実行・検証するための支援を行う活動。

用語	掲載箇所	説明
研究科クロスセクション	6	大学院生に対するリベラルアーツ教育を行う研究科共通科目。業種の枠を超えた産業人材として必要な能力を育み、多種多様な環境圧をバネにする未来型思考と地域力を有した雑草型リーダーを育成する。
アクティブ・ラーニング	9・16	従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修のこと。 (出典：文部科学省中央教育審議会（2012年8月28日）の答申)
FD・SD	9・35	FDは”Faculty Development”の略で、主に教員を対象とした、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための組織的な取組。SDは”Staff Development”の略で、主に事務職員や技術職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援に必要な資質向上のための組織的な取組。
ラーニング・コモンズ	16	学生が効率的に学習を進めるための設備や人的な支援も含めた総合的な学習空間のこと。図書館資料やICT環境が整備され、学習目的にあわせて柔軟に利用できるように考慮している点が通常の自習室との違い。
アドバイザー	17	学生が豊かで安心した大学生活が送れるように、教員が学生一人ひとりのアドバイザーとして学修面と生活面の支援を行う制度。アドバイザー面談期間を設け、全学生が決められた日時にアドバイザーと面談する。
オフィスアワー	17	教員が研究室にいる時間帯を設定して、学生の質問や相談に応じる制度のこと。
学生FD活動	18	学内外のボランティア活動や授業、教育、学内環境改善のため、学生が主体となり、大学との連携によりそのマネジメントに関わる活動のこと。
学生支援コーディネーター	19・20	障がい等のある学生（疑いのある学生を含む。）及び保護者の相談、修学支援のコーディネート、支援に従事する教職員への助言等の業務を行う専門スタッフ。障がい学生支援において、対応困難な事例の増加に伴い、令和5年度から配置を予定している。
県大吉備塾	21・23	学生のキャリア形成及び就職支援活動の一環として実施。県内外で活躍する本学卒業生を招き、在学生に対し仕事内容や業界情報、在学時の取組等を紹介してもらう。
学内競争的資金制度	24・27・41	本学の教員の研究を学内資金で支援する制度。毎年、公募を実施し、学長自らが支援する研究を選定している。 [重点領域研究助成費] 平成21年度に、国等の教育・研究助成費等（各種補助金やGP等）の獲得に繋がるような調査研究で、国際的に卓越した教育研究拠点の形成や本学独自の特色ある教育を目指した調査研究等を助成することを目的に創設した、学長査定による学内競争的研究費。 [独創的研究助成費] 平成19年度に、個人又は複数の研究者の独創性に富む研究や萌芽的研究等を助成することを目的に創設した、学長査定による学内競争的研究費。

用語	掲載箇所	説明
共同研究等	26	<p>[共同研究] 本学が民間等外部の機関から研究費等を受け入れて、共通の課題について共同して行う研究、試験、試作、調査等をいう。</p> <p>[受託研究] 本学が民間等外部の機関から委託を受けて行う研究、試験、試作、調査等で、その研究等に係る費用を委託者が負担するものをいう。</p> <p>[教育研究奨励寄附金] 本学における教育・研究を奨励するため、その対象となる教育・研究の題目又は担当教員を指定して個人及び民間等外部の機関から寄附される寄附金で、教育・研究に要する経費に充てることを目的としてその受入れを承認したものをいう。</p>
アクティブ・ラボ	26	企業や企業が集まる場に本学教員とコーディネーターが出向き、研究内容の紹介や技術相談を行い研究シーズと企業ニーズのマッチングを図る取組。出前研究室ともいう。
大学コンソーシアム岡山	29・38	<p>県内の大学・短大・岡山経済同友会・県によって構成され、連帯と相互協力により、持てる知的資源の活用と、地域社会及び産業界との緊密な連携により「時代に合った魅力のある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」に取り組む組織。</p> <p>参加大学間での単位互換制度や地域に根ざした生涯学習講座「吉備創生カレッジ」、大学が選考した企業による合同企業説明会等を実施している。</p>
UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)	30	企業におけるCI(Corporate Identity)戦略に基づいた考え方で、大学における教育や研究等に関する理念やビジョンを構築し特性や独自性を統一されたイメージやデザイン、またわかりやすいメッセージで発信し社会と共有(学内においても共有)することで存在価値を高めていく戦略のこと。
Advanced class	32	令和3年度から英語教育(English Language Program1~6)で導入する、よりレベルの高いクラス。学生の意思を尊重しながら、習熟度に合わせたよりレベルの高い環境で学ぶことにより、教育効果と学習意欲の向上を図る。
e-learning	32	パソコンやモバイル端末等の電子機器やITネットワークでインターネットを利用することにより、場所や時間、学習内容を問わず自分のペースでスキルアップを行うことができる学習システム。
未来型プロジェクト 創造戦略プロジェクト	38	<p>副専攻「吉備の杜」で開講する課題解決型演習科目。</p> <p>未来型プロジェクトは吉備の杜クリエイター課程における学部4年生を対象とした科目で、企業の現場での社員等との協働を10日間、教員からの指導を10日間で実施し、岡山の未来を展望できる人材を育成する。</p> <p>創造戦略プロジェクトは吉備の杜プロデューサー課程における大学院生を対象とした科目で、企業に赴いての主体的な課題解決に20日間で取り組み、企業の現場で即戦力となるスキルを養成する。</p>

(評定目安) 成果指標について、自己評価する際の目安を示しています。

計画番号	成果指標	目標 (最終)	評定目安
1	(国家試験の合格率) (%) 看護師 助産師 管理栄養士 社会福祉士	100 100 96.0 80.0	4つの試験の目標到達状況について 到達が3つ以上：4、2つ以上：3、1つ以下：2 ※ただし、最終的な評定は、国家試験の目標到達 状況の評定目安だけでなく、年度計画の実施状 況も踏まえ総合的に判断する。
4	就職した学生のうち、県内の事 業所に就職した学生の割合 (%)	55.0	55%以上：4、55%未満～52%以上：4 or 3、52 %未満～50%以上：3、50%未満：2
6	(国家試験の合格率) (%) 保健師	90.0	受験対象者が少ないことも踏まえ、国家試験の 目標到達状況に加え、研究科の進路決定率及び 年度計画の実施状況を総合的に判断する。
6 ・ 7 ・ 8	大学院修了者の進路決定率 (%) 全研究科平均	100	目標到達状況を踏まえた上で、各年度計画の実 施状況を総合的に判断する。
9	アクティブ・ラーニングの推進状 況 (%) (導入率)	80 以上	80%以上：4、80%未満～70%以上：3、 70%未満：2
11	長期インターンシップ参加者数 (人)	55	55名以上：4、55名未満～40名以上：3、 40名未満：2
13	一般前期入試での志願倍率 (倍)	3.2 以上	全学部が目標を上回り、全体が100%以上：4、 一部学部が目標未満、全体が100%以上：4 or 3、 一部学部が目標未満、全体が90%以上：3、 全学部が目標未満、全体が90%未満：2
16	アクティブ・ラーニングの推進 状況 (%) (導入率) (再掲：9)	80 以上	80%以上：4、80%未満～70%以上：3、 70%未満：2
21	就職した学生のうち、県内の事 業所に就職した学生の割合 (%) (再掲：4)	55.0	55%以上：4、55%未満～52%以上：4 or 3、52 %未満～50%以上：3、50%未満：2
22	長期インターンシップ参加者数 (人) (再掲：11)	55	55名以上：4、55名未満～40名以上：3、 40名未満：2
25	公募型研究助成事業の採択数(科 学研究費補助金を除く) (件) (※「国・省庁の政府系助成金」及 び「民間からの助成金」)	25	25件以上：4、24～18件：3、17件以下：2
	科学研究費補助金採択率 (%) (※第3期中期計画の期間におい て、経過年度の平均値で評定)	27	27%以上：4、27%未満～24%以上：3、 24%未満：2)
※当該項目の最終評定は、上記2つの評定の平均による。ただし、3.5の場合：4or3 (上回っ た状況次第)、2.5の場合：3or2 (下回った状況次第)			
26	地域の企業・団体等との共同研究 費・受託研究費・教育研究奨励金 の獲得状況 (合計) (件、千円) ※件数又は金額を到達基準とする	130 件 又は 100,000	合計(共同研究費・受託研究費・教育研究奨励寄 附金)⇒130件以上又は100,000(千円)以上：4、 130件未満～115件以上又は80,000(千円)以上： 3、115件未満又は80,000(千円)未満：2

計画番号	成果指標	目標 (最終)	評定目安
32	TOEIC 平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) ※第3期中期計画の期間において、 経過年度の平均値で評定	5.0	5点以上：4、5点未満～0点以上：3、 0点未満：2
	TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点)	3.0	3点以上：4、3点未満～0点以上：3、 0点未満：2
41	科学研究費補助金獲得額(千円) ※第3期中期計画の期間において、 経過年度の平均値で評定	85,000	85,000(千円)以上：4、 85,000(千円)未満～80,000(千円)以上：3、 80,000(千円)未満：2
49	危機管理対応マニュアルの作成 ・試行運用の状況	—	—
50	災害対応マニュアルの作成並び に学生及び教職員への周知	—	—

※評定4：年度計画を十分に達成、3：年度計画を概ね達成、2：年度計画をやや未達成、
1：年度計画を未達成（※岡山県地方独立行政法人評価委員会が定めた「公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準」参照）